

# 2022年度事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

認定特定非営利活動法人こども∞感ぱにー

ビジョン：子どもの笑顔が地域のなかで育まれるために

ミッション：どんなときも子どもの可能性を信じる大人であり続けます

子ども心と勇気を持って、子どもが安心して過ごせる環境を地域とともに創造し続けます

## 1.活動のまとめ

創立10周年を迎え、これまでを振り返り、これからのこどぱにーの活動目標を整理したと同時に、応援して下さった多くの方々に式典の開催や10周年冊子をお届けすることで感謝の気持ちを伝えた年でした。

こどぱにーはプレーパークやフリースクール、そして来年度から始まる放課後児童クラブの活動を通じて、誰もが集え、互いを尊敬しあい、そして笑い声が地域に響き渡る、そんな環境をつくり続けていきます。

また、本会の活動に地域の人が参加する機会が増え、プレーパークでは、拠点としてだけではなく地域のパイプ役となり、また地域資源の一つとして大きな役割を担い始めました。

フリースクールでは、継続的に関わる人が増えたことで、子どもが多くの人々の価値観に触れることができ、スタッフだけでは担えない役割を地域の人に果たしてもらうことができました。

これまで以上に、地域に開けた活動につながったと確信しています。

放課後児童健全育成事業では、渡波地区の放課後児童クラブの受託が決定し、子どもが育つ放課後を子どもが主体性をもち、安心して過ごせる環境をつくる第一歩となりました。

また、各種教育機関との会議では、『不登校』の居場所の必要性について対話する機会を多くいただきました。今後も教育機関や支援機関などと連携して子どもの『居場所』づくりを考えていくことに期待を持ってた一年でした。

### ≪重点目標≫ 2022年度事業計画より

#### ●地域住民がプレーパークを通じて、「地域の子どもは地域で見守り育てる」を実現する

渡波中学校区WWIでは、学校を拠点に主催イベントの企画やプレーパーク秋祭り、学校行事へのサポートなど地域活動が活発におこなわれた。また、石巻市社会福祉協議会が主催する、渡波かたろう会が発足しその構成団体として本会も加わり地域活動をおこなうなど、地域と子どもを繋げる動きがプレーパーク外でも多く見られるようになった。

また、2023年度から開始するコミュニティスクール運営委員として渡波中学校区3校で選任された。

#### ●フリースクールの発信により、行き場を探している不登校親子に情報を届ける

フリースクールの発信により『不登校』親子に、直接情報を届けることは計画通りできなかった。

しかし、これまで信頼関係を構築した学校を始めとする教育機関、石巻市の総合相談センターなどから本会につながるケースが多かった。これまで活動を継続した成果の一つといえると感じた。

●不登校課題を、ネットワークや各種会議を通じて行政と連携した取り組みを行う

『不登校』理解を深めるための活動として、講演会や視察受け入れ、市内のネットワーク活動において教育機関を含めた『不登校』支援者向けのシンポジウムの開催など多くの発信をおこなうことができた。これにより宮城県教育委員会との関係性を深め、また市内の各種委員会や連絡会議において子どもの処遇に関する情報交換をおこなえるようになった。

2. 事業報告

(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレーパーク事業

●プレーパークわたのは

【目的】

子どもが自分の責任で遊べる機会を創出し、子どもの生きる力を育む

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>○当事者として関わってくれる地域住民を増やすために、地域住民が入りやすい環境をつくる</p> <p>○子どもが思いきり遊べる環境を整備し続け、多様な大人と関わる機会をつくる。これにより、子どもの自己受容や他者理解の精神を育む。</p> <p>○「遊び」という間口から、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。</p> <p>○社会課題を伝えていくために課題の根拠となる現場のデータを取集する</p>	<p>○開催：毎週金・土・日曜日 金/15：00～17：00 土・日/10：00-16：00</p> <p>○体制：スタッフ2名</p> <p>○ボランティア 43名（延202名）</p> <p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウッドデッキ作成(4～6月)</li> <li>・東屋作成(9～11月)</li> </ul> <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハロウィン&amp;秋祭り(11月) 子ども：100名、大人41名 地域の協力者：45名</li> <li>・クリスマスイベント(12月) ※ボランティア企画</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄金浜南地区ゴミ拾い参加(12回)</li> <li>・黄金浜側溝掃除(11月)</li> </ul> <p>【参考】</p> <p>未就学自主開催：45回以上</p>	<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウッドデッキや東屋を地域の人や保護者つくること、過ごしやすい環境を整えるとともに、当事者意識を持ってもらうことができた。</li> </ul> <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレーパーク来所するきっかけづくりと、協力していただくことで、子どものことを想う大人とつながることができた。</li> </ul> <p>【地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会のゴミ拾いへの参加や側溝掃除の企画・実施により関係性が深まり、子どもと地域をつなぐことができた。</li> </ul>
開催回数	140回	150回	
利用人数	<p>子ども延2,980名</p> <p>大人延1,060名</p> <p>合計:4,040名</p>	<p>子ども延2,759名(前年比+1名)</p> <p>大人延855名(前年比-74名)</p> <p>親子延238組(前年比-110組)</p>	

	合計:3,614名	
--	-----------	--

【来所者のエピソード】

・鹿妻小の子どもたち

ひがこーとプレわたの担当が同じになったことで、ひがこーに来所する子どもがプレわたにも来所するようになった。鹿妻と渡波の子どもたちが地域を超えて友達となった。

自分の学校の友達関係がうまくいっていない子どもにとっては、学校以外でつながれた友達が大切な存在となっていた。

・Yさん家族（小学2年生/女子）

ほぼ毎週未来所する家族。子どものYさんも学年性別関係なしに他児と一緒に遊ぶが、父親も「虫・カナヘビ博士」として子どもたちに親しまれ一緒に遊んでいる。

・Aさん（高校3年生/女子）

小学生から来所している彼女は、プレーパークで出会った親御さんと仲良くなり、大学進学や一人暮らしの相談をする関係性がうまれた。最終的にその子ひとりでご飯を食べに家に行くほどの関係となり、安心できる居場所となっていた。

【課題】

- ・地域住民へのプレーパークや子どもの遊びの大切さなどをどのように伝えていくか
- ・定期的なボランティアスタッフの確保

●プレーパークひがこー

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>○「遊び」という間口から、多様な大人と関わる機会をつくり、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。</p> <p>○ボランティアの受け入れや資金調達を行うことにより、安定した開催体制をつくる。</p>	<p>○開催：水曜日15：00－17：00</p> <p>○体制：スタッフ2名</p> <p>○ボランティア：12名(延58名)</p> <p>【環境整備】</p> <p>倉庫内整理（通年）</p> <p>【イベント】</p> <p>・1日あそび場：2回(4、8月)</p> <p>※8月は渡中学区WWI、かづま地域食堂と共催</p> <p>【地域連携】</p> <p>・鹿妻小学校授業「農村クラブ」サポート</p> <p>【広報】</p> <p>・会報誌配布（各30部）</p> <p>・1日ひがこーチラシ配布</p>	<p>【体制】</p> <p>・ボランティアとスタッフ1名でひがこーを開催する体制が整う。</p> <p>【地域連携】</p> <p>・学校から「学校ではフォローしきれない子どもを受け入れてくれる場所があってありがたいです」との声をいただいた。</p>
開催回数	50回	50回	

利用 人数	子ども延1,400名 大人延350名 合計:1,750名	子ども延886名（前年比-18名） 大人延230名（前年比+80名） 親子延109組（前年比+3組） 合計:1,116名	
----------	------------------------------------	---	--

#### 【来所者のエピソード】

##### ・Tくん（小学6年生/男子）

毎週来所して遊ぶことがモチベーションになり頑張っ学校に通った子どもがいた。ひがこーが遊びの保障の場だけでなく、安心して過ごせる居場所になっている。その後プレーパークわたのはも併用するようになり、本児にとって安心して過ごせる場所が少しずつ増えてきている。

##### ・Hくん（小学2年生/男子）

未就学児と遊ぶことが大好きなHくん。未就学児親子が来るとすぐに駆け寄りベビーカーを押したり、鬼ごっこなどで一緒に遊ぶ。保護者もHくん「面倒を見てくれてありがとう、たすかるわー！」と伝えていて、よい関係性ができた。

#### 【課題】

- ・継続ボランティアの確保と人材育成。
- ・前年度と比較し、関わる大人は増えたが子どもの来所数が減少した。

### ●プレーパーク・プレイワーク普及事業

#### 【目的】

- ・石巻の被災地に新たな人の流れを作り孤立によるリスクが高い、子育て世帯や高齢者のコミュニティづくり

	目 標	実 績	成 果
内容	○移動式のプレーパークで石巻の被災地域をめぐり、人の流れ、人の繋がりを作る（年5回） ○報告ブログ作成	○場所：北上、雄勝2回牡鹿2回 ○振り返り交流会(3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民と共催し、地域への想いの強い方と新たな住民とを繋ぎ、新たなコミュニティづくりのきっかけとなった。</li> <li>・多地域の住民がつながり情報交換できるLINEグループができた。</li> <li>・地域の子どもが、新たな友達と遊ぶ機会と、遊び道具がなくても自然の中でのびのびと遊ぶことができた。</li> <li>・支援終了後も継続するための提案ができた。</li> <li>・母親支援として、振り返り交流会が必要不可欠と確認できた。</li> </ul>
開催回数	プレーパーク5回 振り返り交流会1回	プレーパーク6回 振り返り交流会1回	
利用人数	延125名	プレーパーク：子ども延92名 大人延91名 振り返り会：子ども3名、 大人5名 合計:延183名	

【来所者エピソード】

- ・沿岸部にお住まいの未就学児のお母さん  
沿岸部で孤立した環境での子育ては、母親の心理的負担が通常よりも強いため、2ヶ月に一度集まる機会があるだけでも、心理的なサポートになるという声が聞こえた。
- ・各地域にお住まいの協力者や、遠くから参加する人の力により、毎回個性豊かなあそび場を開催できた。雄勝波板地区での芋煮会では、海に向かって歌えるカラオケ大会となり、参加した子どもがとても喜んでいた。

【課題】

- ・遊びの機会づくりを必要としている地域は多いが、キーパーソンとなる人材が足りない。
- ・地域の人から自ら遊ぶ機会づくりとサポートの形式の提案

◆フリースクール事業

●フリースクール“ぼはっく”

【目的】

『不登校』の子どもが安心して過ごせる居場所や、「やってみたい」を実現できる環境をつくり、社会的に自立するためのサポートをおこなう

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>○不登校で悩む親子に、フリースクールや相談窓口の情報を届けるための情報発信方法を確認し、それによって登録者・相談者の増加を図る</p> <p>○高校進学、社会への自立：5名</p> <p>○出席扱い学校数：在籍児童生徒が通う学校すべて</p> <p>○石巻市の学校、SSWや総合相談センター、保護課などの教育機関・行政機関と連携体制の構築</p>	<p>○開催：月・木・金曜日 10：00-16：00</p> <p>○体制：常勤2名、非常勤1名</p> <p>【子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団欒、学習、料理、スポーツ、ものづくり、海遊び、畑作業など。受験生との個人面談や学習計画立案、面接練習</li> <li>・子ども会議：17回</li> </ul> <p>【イベント】：38回</p> <p>性教育勉強会（6月）/サイクリング（7月）/イラスト大会（10月）/クリスマス会（12月）/2泊3日合宿（3月）/保育体験（7月～11月定期的に体験）/誕生日会 など</p> <p>【地域(学校)連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録児童生徒の個別記録の提出(計87回)と情報交換</li> <li>・地域の大人との交流:89回</li> <li>・専門機関との連携体制構築</li> </ul>	<p>【子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校復帰や社会への自立：5名（高校進学4名、学校復帰1名）</li> <li>・子ども会議が増え、外出や合宿の計画立案だけでなく、生活のルールなども子ども同士で決めることができた。自分の意見を持つことができなかつた子たちが、会議を重ねるにつれ、自分の意見を発し、他児の意見を聞いてディスカッションできるようになった。</li> </ul> <p>【地域(学校)連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席扱いの学校が2校増加（計11校）</li> <li>・地域の人にオリエンテーションや振り返りを行うことで、不登校理解が深まった。</li> <li>・発達障がいの子どものサポート団体と2件の事例に関して連携を図ることができた。</li> </ul>

		ケース会議：6回 石巻市総合相談センターとの連携・情報共有：4件(生活困窮・ひきこもり) 石巻圏域子ども若者支援地域協議会への出席：1回 SSW会議：1回 ○スタッフ処遇会議：月1回 ○保護者面談：月1回～2か月に1回	
開催回数	140回	153回	
登録数	30名(+新規6名)	36名(新規13名)	
利用人数	延1,120名	延1,103名	

#### 【来所者エピソード】

##### ・Tくん（17歳/男子）

中学を卒業後、家庭の事情によって高校進学ができなかったため2年遅れて高校進学することを目指した。受験勉強や面接練習のサポートを行い、無事合格することができた。

##### ・Gくん（中学1年生/男子）

学校へ通えないことが精神的負担になっていたが、「学校に通えなくてもフリースクールがある」という安心感から、学校とフリースクールをハイブリットに通うことができるようになった。また、4月からは学校復帰をすることができ、毎日学校に通っている。

##### ・Aくん（中学1年生/男子）

プレわたの隣に住んでいる彼はプレーパークに通う中でスタッフに「実は学校に行けていないんだ」と相談しフリースクールに繋がる。今ではフリースクール開催日外でも自力で事務所に来所して過ごすほど、彼にとって安心して過ごせる居場所となった。

#### 【課題】

- ・本事業の周知、情報発信（リーフレット配布、HPの充実）
- ・定期的なボランティアスタッフの確保

#### ◆放課後児童健全育成事業

##### ●渡波地区第一第二放課後児童クラブの委託運営

#### 【目的】

放課後児童クラブに通う子どもにとって、児童クラブが楽しく、安心して過ごせる環境となることで、子どもの心身ともに健全な育成を図る

	目 標	実 績	成 果
内容	○2023 年度開始の渡波小学校放課後児童クラブの民間委託受託と円滑な業務引継ぎに向けた準備をおこなう	<p>【受託に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパス・給与表完成</li> <li>・労働条件の構築</li> <li>・公募申請</li> </ul> <p>【プロポーザル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月申請/10月末採択</li> </ul> <p>【受託決定後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求人説明会（12月、1月）</li> <li>・保護者説明会3回（2月）</li> <li>・参考事業先への視察</li> <li>・各種マニュアル作成</li> <li>・スタッフ研修実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>2月座学：講師嶋村仁志</li> <li>3月実地：プレわた</li> </ul> </li> <li>・現場引継ぎ 7日間</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人市議勉強会で児童クラブについて講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻市で放課後児童クラブのプロポーザル第一号の受託団体となり、放課後児童クラブに通う子どもたちの「遊び育つ」環境づくりのスタートを切れた。</li> <li>・他市・他県の同業者から「子どもの主体性を尊重する児童クラブ」をつくるにあたり期待と応援を受けとる。（原京子氏、齋藤勇介氏）</li> <li>・新規スタッフ採用では、本会のビジョン・ミッションに共感する仲間を採用できた。</li> </ul>

#### 【課題】

##### ・業務体制の構築

プロポーザルの時期が4か月後ろ倒しにより、事業開始に向けた業務マニュアルの整備が追いつかず、新規スタッフの研修やマネジメントについても体制構築が急がれる。既に児童クラブを運営している市内団体や、アドバイザーである齋藤勇介氏（NPO法人子育て応援団ゆうわ理事長）に助言・協力を仰ぎ、体制構築に尽力したい。

##### ・放課後児童支援員の確保

安定した現場運営をしていくうえで資格保持者の獲得が必要。運営開始後、積極的に本会が運営する放課後児童クラブの魅力を発信し関心を喚起し、理念に共感する仲間を見つける。

##### ・関係各所との信頼関係の構築

子どもの主体性を尊重した放課後児童クラブを実現していくために、市や学校、保護者や地域住民との信頼関係の構築が欠かせない。10年のこどばに一の活動で積み上げてきた関係各所との関係性づくりも、立場が変わったことで新たな意識を持って臨んでいかなければならない。

#### ◆地域・民間団体との連携事業

##### ●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目 的】

石巻全域の子どもが、自らの足で出向ける場所にプレーパーク（居場所）があり、地域で子どもを見守る体制を構築することで、子どもの孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域づくり

	目 標	実 績	成 果
内容	◎7年後までに、石巻市内13か所の子どもの居場所（児童館、プレーパーク）設置を目指し、構成団体や地域住民と連携して、子どもの居場所を増やす。そのために、子どもや保護者の声を行政に届ける。	◎定例会議：12回（事業計画や事業の振り返りなど） ・総会：7月 ・あそび場めぐり：7回（石井閘門、亀ヶ森、にじいろ農園/プレーパーク、ひがこー、高玉神社、まっちゃんやおや） ・こどもセンターらいつ移動児童館サポート：9回 ・あそび場座談会：1回（子どもの遊びとケガ）	・毎月の定例会は、メンバー以外の参加者が4名増え（子ども支援団体、本会の継続ボランティアなど）情報交換の場として広がり始めている。 ・遊び場めぐりは、あそび場の普及・啓発の一助となった。 ・あそび場座談会では、蛇田中埠地区会長・副会長・子育て支援課など多様な参加し、世代間の価値観・言葉のすり合わせができた。蛇田地区で子ども支援をおこないたい地域住民の理解と共同意識を高めることができた。

【課題】

- ・マンパワーの不足

石の会の構成メンバーは、それぞれの団体の活動もあることから、活動を通して子どもや保護者の声を聞いているが、それを集約・整理し行政に届ける機会を生み出す時間がない  
定例会で少しずつでも進めるよう、会議の議題に継続的に盛り込むなどの仕掛けが必要

●渡中学区WWI(わっしょい渡波委員会)

【目 的】

渡波中学校区の子どもが地域で見守られ、安心して暮らせる地域をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	渡波中学校区(小学校2校、中学校1校)のPTAや民生委員、社会福祉協議会などと「地域の子どもは地域で見守り育てる」を合言葉に、任意団体として地域貢献活動を推進する。	○定例会議9回 ○WWI勉強会(講師：須永)/5月 【地域活動サポート】 ・プレーパークわたのは秋祭り(11月) ・渡波中学校廃品回収(11月) 【自主活動】 ・肝試し大会 鹿妻小学校10月 渡波小学校11月 ・WWI&教員VS子どもソフトボール大会10月	・構成メンバー：25名(+5名)各校校長・教頭・教員、PTA会長、民生委員、石巻市社会福祉協議会、民間団体など。 ・コロナウイルス感染症の緩和から、活動も少しずつ復活し地域活動をおこなうことで認知が高まった ・メンバーのモチベーションが上がり、主体的な活動に変化した。



### ●渡波かたろう会

#### 【目的】

「交流・見守り・支えあい」を合言葉に、地区や世代をこえて子どもも大人もお年寄りもみんながつながり支えあい、安心して過ごせる地域をつくる。

	目 標	実 績	成 果
内容	社会福祉協議会や民生委員、地域サロン代表、福祉NPOなどと「子どもも大人もお年寄りもみんながつながり支えあう地域」を目指し、地域貢献活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ1名配置</li> <li>・定例会議：8回 (活動計画、ハロウィン&amp;秋祭り企画等)</li> <li>【イベント】</li> <li>・ハロウィン&amp;秋祭り(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成メンバー：15名 社会福祉協議会、民生委員、地域サロン、WW I、地元商店、民間団体など。</li> <li>・今年度から本格的に動き出し、イベント企画を経て会として目指す先を共通認識として持つことができた。</li> <li>・イベントでは地域の高齢者と子ども、プレーパークの子どもや親御さんと地域住民など普段の活動の中だけでは関わらない人同士をつなげることができた。</li> </ul>

### ●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

#### 【目的】

教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	◎不登校支援団体や議員を含む市民が連携し、行政と協働を図るための体制づくりをおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎スタッフ1名配置</li> <li>◎定例会議：11回（事業計画、事業振り返り他）</li> <li>◎宮城県不登校支援連絡会議：3回（主催：宮城県教育委員会）</li> <li>◎勉強会：3回 特例校、不登校対策意見交換会など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成団体：17団体</li> <li>・宮城県教育委員会主催の連絡会議では、不登校対応マニュアル作成に関する発言の場となり、関係性を深めることができた。</li> </ul>

### ●まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク

#### 【目的】

石巻市内の不登校児童生徒の孤立をなくし、一人ひとりが心と居場所の安定を図ることで自己の未来を切り開く

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>◎『不登校』の要因や教育機会確保法の周知、官民連携の事例を紹介することで、行政と協働でその改善策を構築する。</p>	<p>◎スタッフ1名配置</p> <p>◎定例会議：9回</p> <p>◎『不登校』シンポジウムに関する会議：6回</p> <p>【主催イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の会“おでんの会” 開催数：6回 来場数：延べ30名以上</li> <li>・『不登校』の要因に関する勉強会 来場数：9名+メンバー5名 講師：田中</li> <li>・『不登校』シンポジウム(2月) 来場者数：64名 属性：教育関係者(教育委員会・教職員他)、社会福祉協議会、不登校支援団体など 会場：まるほんまきあーとテラス大研修室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成メンバー：8名 こども支援団体、教員、県議会議員他</li> <li>◎親の会を定例会として開始するが、参加者が定着せず</li> <li>◎親の会を開催し、当事者の声を聞いたことをきっかけに、定期的な「親の会」開催に向けた意識統一ができた。</li> <li>◎不登校シンポジウムでは、教育機関を含む不登校支援者が多数参加し、『不登校』理解を深めるとともに意見交換の機会を提供することができた。</li> </ul>

## (2)子育てサポート事業

### ●子育て相談

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>・子育て・不登校相談を受け入れ、孤立し悩む保護者の心のケアを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談または電話による相談窓口（事前予約制）</li> <li>・プレーパークで子どもを遊ばせながらの「ながら相談」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『不登校』親の会や他団体の相談窓口との連携により、不登校児童生徒をもつ保護者からの相談が増加し対応を行うことができた。</li> </ul>
相談件数	<p>不登校相談新規：12件</p> <p>子育て相談：60件</p> <p>子ども相談：10件</p>	<p>保護者・児童面談、新規相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースクール保護者面談(新規含む)：延べ41名</li> <li>・子育て/DV相談：延べ51名</li> <li>・家族面談：延べ3回</li> <li>・子ども面談 延6名（その他日常的に相談対応）</li> <li>・引きこもり生徒の家庭訪問：1回</li> <li>・困難事例家庭訪問：1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外からの相談や家族面談など、相談の範囲や形式に変化があり対応することができた。</li> <li>・中学生の緊急一時保護により、関係機関と連携し対応をおこない、家族関係の見守りと子どもの受け入れを継続している。</li> </ul>

		・来所困難児童相談と対応：1回	
--	--	-----------------	--

【課題】

- ・子育て相談の人材育成

(3)自然体験プログラム事業

◆Ecoキャンプ“自然とともに”

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレーパークとフリースクールの子どもの交流</li> <li>・サバイバルキャンプを通じて自然の恵みと人への感謝の心を育む</li> </ul>	夏休み期間中3泊4日 場所：石巻市十八成浜	・プレーパークとフリースクールの子どもがサバイバルキャンプを通じて交流を深め、また非日常的な体験を通じて創意工夫や生きるための知恵を身に着けることができた。
人数		11名	

(4)前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

◆啓発事業

●講師派遣

- ・民生委員研修『石巻の子どもの課題』5月/石巻市内/田中
- ・『不登校』について考える：7月/大河原/田中
- ・『不登校』に関する情報交換会：10月/オンライン/田中 公明党国会議員・県議会議員・市議
- ・主任児童員研修『不登校』の要因：10月/石巻市/田中
- ・子どもがつなげる地域コミュニティ：11月/富谷市/田中
- ・子どもセンターらいつ移動児童館：8回/4月,5月,6月,9月,11月,12月,1月,2月  
(石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会からの再委託)
- ・はぴはぴ講座(子どもセンターらいつ)：3回/6,10,1月/石巻市
- ・街ライブラリー：10月/市内高校1校/
- ・ミニ学習会：2月/八本松児童館/ 石巻市

◆情報発信事業

- ・『遊びの大切さ』講師：須永力 5月/石巻市
- ・認定NPO法人取得感謝祭 6月/石巻市
- ・創立10周年式典 2月/石巻市
- ・創立10周年報告冊子 3,000部
- ・会報誌“だんごむし”：4回発行 各800部
- ・ブログ：年5回/4月,6月,8月,9月
- ・SNS (Facebook、Twitter、Instagram)：週1～2回程度配信
- ・10人お話し会：オンライン3回、リアル2回(大崎市、東京)/8月,9月,10月
- ・石巻教育カンファレンス(WWI)：2月/東松島市

#### ◆人材育成事業

##### ●事業運営スキル向上のためのスタッフ研修

- ・カウンセリング講座（講師 高橋和巳氏）：2回/ オンライン・リアル
- ・放課後児童支援員研修：4回/12月/石巻市 1名
- ・防火管理者講習：1回/11月/仙台 1名
- ・放課後児童クラブ先進事例を学ぶ：2月/名取市

##### ●組織運営のためのスタッフ研修

- ・ビジネスマナー講座：1回/5月/石巻市 2名
- ・コーチング：5回/石巻市 1名
- ・資金調達研修：5回/6月,10月,12月,1月,3月

##### ●外部人材育成

- ・ボランティア：計85名/延べ349名
- ・社会教育主事研修：4名
- ・NPO夏のボランティア体験：3日間,4回/12名/7月,8月
- ・石巻西高校1年生インターン：2日間/3名/12月
- ・石巻専修大学生：9名/11月

#### (5)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

##### ◆主たる活動地域内

- ・渡波小学校評議員
- ・鹿妻小学校評議員
- ・渡波中学校区協働教育協議会会議
- ・鹿妻小学校クラブ活動サポート「農村クラブ」：1回/鹿妻

##### ◆石巻市内

- ・石巻市不登校支援関係機関懇談会/田中
- ・石巻市地域福祉推進委員会/田中
- ・石巻圏子ども若者支援地域協議会/田中
- ・石巻市スクールソーシャルワーカー連絡会議/田中
- ・石巻市子どもの居場所懇談会/田中
- ・石巻市都市計画審議会/田中
- ・らいつコンソーシアム運営協議会/田中
- ・NPO法人にじいろクレヨン理事会/田中
- ・NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事会/田中 など

◆宮城県内

- ・宮城県不登校情報交換会
- ・宮城県不登校に関する官民連携会議
- ・宮城県子育て支援との懇談会 など

3.事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者	受益者	事業費(円)
①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業	プレーパーク事業 ・プレーパークわたのは ・鹿妻プレーパークひがこー ・移動式プレーパーク	金・土・日曜 水曜 5回	渡波 鹿妻 石巻市内	4名 2名 1名	幼児 ～高校生 延べ4,748人 地域住民 延べ1,085人 (343回)	18,869,626
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく	火・木・金曜	鹿妻	3名		
	地域・民間団体との連携事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・渡中学区WWI ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク ・まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク	月1回～2回 月1回程度 月1回～2回 月1回～2回	石巻市内 石巻市内 宮城県内 石巻市内	2名 2名 1名 1名		
	②子育てサポート事業	子育て・不登校相談	随時	石巻市内	1名	
③自然体験プログラム事業	Ecoキャンプ“自然とともに”	8月	石巻市内	3名	-	234,629
④前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材	啓発事業 ・講座/研修/講演会への講師派遣 情報発信事業 ・会報誌“だんごむし”発行など 人材育成事業 ・事業運営スキル向上のための研修 ・組織運営のためのスタッフ研修 など	各通年 (年20回程度)	宮城県内 石巻市内	6名 7名 6名		1,566,154
⑤その他、本会の目的を達成するために必要な事業	主たる活動地域内 ・渡波/鹿妻小学校評議員会議 ・渡波中学校区協働教育協議会 ・石巻市都市計画審議委員会 ・石巻市社会福祉推進委員会 ・らいつコンソーシアム協議委員会 ・NPO法人子どもにやさしいまちづくり理事 ・NPO法人にじいろクレヨン理事 など		石巻 市内	各1名	-	265,636

(1) 会議に関する事項

理事会の開催：5回

(2) 運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り

代表理事：田中雅子

常勤スタッフ：4名

非常勤スタッフ：2名

(3) 組織基盤強化への取り組み

グッドガバナンス認証（第二回継続申請）2023年1月27日認証

(4) 会員

① 正会員 23名（前年+11名）

② 賛助会員（サポーター含む） 85名（前年+9名）

③ 子ども会員 0名

(5) 地域社会や他団体との連携について

宮城県教育委員会義務教育課・生涯学習課、宮城県東部教育事務所、宮城県東部児童相談所、石巻市福祉部子育て支援課・保育課、石巻市都市計画課、石巻市総合相談センター、石巻市教育委員会、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校

公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク、特非) ベビースマイル石巻、特非) TEDIC、特非) にじいろクレヨン、特非) 子どもにやさしいまちづくり、一社) プレーワーカーズ、一社) フリースペースつなぎ、特非) まきばフリースクール、一社) フリースペース道、ふふふはうす  
など連携団体は多数